

# 決算を認定!

## 定例会の 主な内容

第6回(9月)定例会は、9月16日から10月16日までの31日間にわたり開催しました。この定例会では、令和元年度沼津市一般会計歳入歳出決算の認定等29件、議員提出議案2件を審議し、いずれも原案のとおり議決しました。

ここでは、令和元年度の一般会計、特別会計及び企業会計の審査、歳入・歳出決算額等の主な内容をお知らせします。

### 特別会計決算

会 計	歳 入	歳 出	差 引 額
国民健康保険事業	223億7,890万円	217億9,136万円	5億8,754万円
土地取得事業	5億176万円	5億176万円	0円
介護保険事業	168億7,255万円	166億1,696万円	2億5,560万円
簡易水道事業	3,112万円	3,099万円	13万円
後期高齢者医療事業	25億3,399万円	25億2,474万円	926万円

### 企業会計決算

会 計	収 入	支 出	差 引 額	
病院事業	収益的収支	111億8,566万円	110億8,033万円	1億533万円
	資本的収支	4億9,188万円	8億8,428万円	△3億9,240万円
水道事業	収益的収支	30億6,481万円	25億3,305万円	5億3,175万円
	資本的収支	10億1,087万円	24億6,634万円	△14億5,547万円
下水道事業	収益的収支	52億4,328万円	48億2,515万円	4億1,813万円
	資本的収支	21億9,456万円	40億2,306万円	△18億2,850万円

- ◆収益的収支：事業活動に伴って生じる収入と支出 ◆資本的収支：建物や機器などの資産の購入・売却による収入と支出  
◆一般会計から病院事業会計へ20億5,000万円、水道事業会計へ2,377万7,000円、下水道事業会計へ23億3,000万円繰り入れています。  
なお、企業会計決算額は、消費税及び地方消費税を含みます。

## 特別会計企業会計予算決算委員会での主な質疑

**問** 平成30年度の国民健康保険制度改革に伴う本市の事業運営への影響は。

**答** 平成30年度の国民健康保険制度改革に伴い、県が財政運営の責任主体となり、市町の保険給付が急激に増加する状況になったとしても、県から全額、保険給付費等交付金として交付される制度となった。これにより、本会計において医療費が急増した際の財源確保など運営上のリスクが少なくなり、財政運営の安定化に効果があったと考えている。

**問** 国民健康保険の保険給付費の増加を抑制するための取組は。

**答** 医療費を抑える取組として、特定健康診査や人間

ドックなどの健診事業に加え、生活習慣の改善施策などにより被保険者の健康の保持増進を図るとともに、頻回、重複受診者への指導やジェネリック医薬品の利用促進などを実施した。

**問** 令和元年度の病院事業会計決算の評価は。

**答** 令和元年度は、沼津市立病院新改革プランの3年目であり、収入増加策や費用削減策に、引き続き取り組んできた。収入増加策としては、平成31年4月から泌尿器科の入院診療や手術を再開することができたとともに、看護師等の配置の見直しによって新たな加算を取得し診療報酬単価の向上などに取り組んだ。これらの結果、平成30年度

に比べ、入院患者数が2,904人増加し、入院収益は約5億4,700万円増加した。また、費用削減策としては、医療機器に対する複数の保守点検契約の包括契約への変更、契約電力の入札による価格競争の導入などを実施した。令和元年度は、このような収入増加策や費用削減策に取り組み、経常収支は平成25年度以来の黒字となり、約7,800万円の純利益を計上した。

**問** 水道施設の耐震化の進捗状況は。

**答** 沼津市水道事業ビジョンで設定した令和元年度の目標耐震化率に対する進捗状況について、配水池は、目標値77.3%に対し76.2%で、目標値を1.1ポイント下回った。

基幹管路は、目標値38.6%に対し38.6%、耐震化優先管路は、目標値26.6%に対し26.6%で計画通りの整備が図られた。以上のことから、おおむね計画通りに進んでおり、水道施設の耐震化が順調に図られていると考えている。

**問** 本決算を踏まえた下水道事業経営に対する認識は。

**答** 令和元年度は、平成31年4月の下水道使用料改定などにより、純利益、約3億2,800万円を計上したことで累積欠損金を解消することができた。しかし、今後も施設の老朽化対策や管路の整備など多額の費用が見込まれる状況にあることなどから、経営改善に向けたより一層の取組が必要であると考えている。